

平成20年 敬老作文集

小学生の部

最優秀賞

おじいさんと

天国のおばあさんへ

井川小5年 三浦梨沙子



梨沙子さん
(さくら)

私のおばあさんは、去年なくなってしまっただけで今は、おじいさんは一人暮らしです。

私のおじいさんは、今年で七十三歳になりました。でもおじいさんは、毎日仕事をがんばっています。おじいさんは、いろんなところに行って仕事をしていきます。たまには、おじいさんの畑に行っておじいさんと一緒に野菜の収穫をします。とった野菜はいつも

「おうちに持っていくって食べれ。」と言ってくれます。おじいさんの野菜はとてもおいしいです。六月は豆などを収穫します。他の月には、じゃがいも、トマト、とうもろこしなど、おじいさんの畑では、いろいろな野菜がとれます。

私のおばあさんは、とてもやさしいおばあさんでした。病気には、岩盤浴がよく効くというのでおじいさんと、おばあさんと岩盤浴に行きました。岩盤浴に行ったときは、とても暑くて、苦しかったので私だけ外に出してしまったりもしました。おじいさんは仕事がたくさんあったので、おじいさんと、おばあさんとの一番の思い出は、岩盤浴に行ったことです。おばあさんは五月になるとささもちを作ってくれました。お正月には、お年玉もくれました。お正月やお盆のときには、みんなでご飯を食べました。私が幼稚園のころは、毎日スクールバスでおじいさんと、おばあさんの家に行っておばあさんの作ったご飯を夜食べから家に帰っていました。

おばあさんが病気になった時

「生きたい！」とつらいちりょうにもいっしょうけんめいたえていました。私も学校で部活や勉強でくじけそうになっても、おばあさんのことを思い出してがんばろうと思います。

おじいさんもおばあさんがいなくて一人暮らしだけががんばって下さい。部活が休みの日は遊びに行くからね。梨沙子はおじいさんのことが大好きだよ。だから長生きしてね。

優秀賞

わたしのおばあちゃん

井川小2年 畑澤 雅



雅さん
(街道)

わたしのおばあちゃんは遠くに住んでいます。きょう年までは、ひ

敬老作文コンクールの入賞者の表彰と最優秀賞を受章された方からの朗読発表が、今年も敬老式会場で行なわれました。

今年も井川小2・5年生、井川中2年生からの応募があり、それぞれ最優秀賞1点、優秀賞2点、優良賞2点の計10点が入賞しました。

入賞された方々の敬老作文をご紹介します。

いおばあちゃんと二人ぐらしでしたが、そのひいおばあちゃんがなくなってからは、一人ぼっちになってしまいました。それから、しごとをやめて、よくわたしのいえに食べものをもってあそびに来ます。おかし、手作りかん天、にもの、つけものなどをもってきてくれます。かん天はときどきあまりすぎて、こっそりすててしまうことがあります。でも、にものとおけものはおみせでかうよりもおいしいです。おばあちゃんは食べているわたしを見て、うれしそうにニコニコわらっています。

さいきんは夕ごはんをいっしょに食べていくときもあって、お母さんが作ったたりょうりを「おいしい。」

と言って食べます。その言ばに、わたしもなんだかうれしくなります。お母さんもうれしそうな顔をしています。

おばあちゃんは、「べんきょうをしなさい。」とか、

「つくえをかたづけなさい。」
と言うときもあって、



「うるさいなあ。」

と思うときもあるけど、わたしのことを心ばいしてくれているんだと思います。

わたしはよく手紙も書きます。学校のこととか、友だちのこと、いろいろなことを書きます。おばあちゃんは、

「ありがとう。字が上手だね。かん字も書けるようになったんだね。」

と言ってくれます。わたしはうれしくて、手紙をこれからもずっと書いていこうと思っています。いまよりもっと字が上手になってもっとおばあちゃんにほめてもらいたいからです。

いつも元気なおばあちゃん。これからも、びょう気をしないで、元気でいてほしいです。

いつもがんばるおばあさん

井川小五年 雄鹿 柚生



柚生さん
(街道)

ぼくのおばあさんは、おじいさんと東能代に住んでいます。あばあさんはおどりが大好きで日本ぶようを習っています。おどりの発表会が近づくと、日曜日は一日じゅうおどりの練習です。ぼくたちが遊びに行くと、おどりの練習でつかれていてもいつも笑顔でごはんを作ってくれます。おじいさんが畑で作った野菜を使った料理は最高においしいです。

おばあさんが作るデザートもとてもおいしいです。その中でもぼくが好きなのはいちごミルクです。畑で取れたいちごをよくあらってつぶし、さとうをまぜて冷凍庫で冷やします。固まったいちごに牛乳をかけて食べると、かき

氷になったいちごジャムを食べるようで甘くてとてもおいしいです。

ぼくが「おいしい!! おいしい!!」と、食べると「いがったあ。いっぱい食べれ。」と、うれしそうにしています。

去年のマラソン大会はおばあさんも応援に来てくれました。ぼくが一位になったのをすごく喜んでいて、今年も応援に来ると言ってくれています。今年是一位になれるかわからないけど、おばあさんのためにも一生けん命がんばりたいです。おばあさんとおじいさんに元気で長生きをしてほしいです。



優良賞

わたしは、しあわせもの

井川小二年 小武海春香



春香さん
(羽立)

わたしはおじいさんとおばあさんとすんでいます。

わたしのおじいさんは一ばん早おきをして田んぼに行きます。前日のよるどんなにおそくねてもあさはとつても早おきをしてしごとにでかけます。

おじいさんは国花えんで草かりをしています。グラントゴルフ場やチビッコ広場などのしばふをぜんぶきれいにしています。あさから夕方まで草かりきをおしながら一日じゅうあるくおじいさんはとも元気いっぱいです。

いえに帰るとわたしと妹のあそ

びあい手になってくれます。かけっこやボールあそび、トランプ、しよぎも教えてくれるスーパーウルトラスペシャルじいちゃんです。

わたしはそんなやさしくて元気いっぱいのおじいさんが一ばん大好きです。

そしておばあさんは、いろんなものをはたけでそだてています。トマトやきゅうり、なす、アスパラなどたくさんのおいしいをそだててわたしたちにたべさせてくれます。おばあさんのつくったやさしい、とてもおいしくてたべれば元気が出ます。

こんど、わたしもはたけのお手伝いをしたいので、つれてつてね。

わたしは、こんなにすてきなおじいさんとおばあさんがいてとてもしあわせです。いつまでもこのしあわせがつづくようにおじいさんとおばあさんには、元気で長生きしてほしいです。わたしもおじいさんとおばあさんを大切にします。

どうもどうも

おじいさんおばあさん

井川小五年 白川雅寛



雅寛さん
(街道)

ぼくの、おじいさんとおばあさんは、ぼくの家に住んでいます。

ぼくの、おばあさんは、朝早く起きて、家の畑仕事をしてくれます。おじいさんは春に田植えのじゅんびとして、田んぼを、トラクターでたがやして、夕方の午後五時くらいまで、いっぱいがんばってくれます。そして、あばあさんは、足やこしがいたいのかかわらず、畑のお仕事をいっしょうけんめいがんばっています。

夏には、水田の水の管理を毎日やっていて、おばあさんは、いろいろな野菜のしゅうかくをします。ぼくはたまに、おばあさんの

お手伝いをしたり、おじいさんとおばあさんに何分か少しでも、つかれをとってもらうために、かたたたきなど、マツサージなどをします。おじいさんもおばあさんもとてもよろこんでくれます。

ぼくが、一番おばあさんやおじいさんに、かんしゃしたいことは、おばあさんは、朝早く起きて、野菜をしゅうかくして、朝ごはんは、お母さんが作りますが、夏休みや冬休みや、秋休みの昼ごはんや、夜ごはんなどを、栄養バランスを整えて、ごはんを作ってくれます。おじいさんは、春から秋までに米の管理をして、ぼくたちが毎日、食べているお米をおいしく作ってくれます。

願いは、おばあさんには、ぼくたちが病気になるないように、栄養バランスの整ったおいしいごはんを作ってほしいです。おじいさんには、少しでも長生きしてもらえようにならばこをやめてほしいです。

がんばりたいことは、大変だと思うけど、おじいさんや、おばあさんなどの後をつぎ、りっぱな農家になりたいです。

中学生の部

最優秀賞

祖父母の米づくり

井川中二年 三浦志織



志織さん
(赤)

私の祖母は、私が生まれるずっと前から米づくりをしています。毎年毎年、広い田んぼを二人で毎日のように手入れをしています。そのお米が一等米になったときは、「おお、うちの米、一等米になったあ。」と、とても喜んでいました。でも、丹精こめてつくったお米が二等米になったときは、

「あー。すかだねえな。」と、残念そうです。

私は、家で作ったお米はたとえ二等米だとしても、店で食べるごはんの数倍おいしいと思っています。だから私は、ずっと祖父母にはお米をつくり続けてほしいと思っています。

今年の春、祖父が突然言いました。

「あのな、今年からうちで食べる分だけおえらでやって、田の一部を人さ頼もうと思ってるんだ。」

これ聞いた時、私はショックを受けました。毎年二人でがんばって育てていたお米を人に任せるなんて思いもよらなかつたし、あつたとしてもまだずっと先のことだと思っていたからです。祖母がこの決断をするには、とても悩んだらうと思うし、またつかつただらうなとも私は思います。

でも、まだ二人は米づくりを続けていてくれます。そして今までと同じようにおいしいお米を私たち家族に食べさせようとしてくれます。

優秀賞

祖母の思い出

井川中二年 鷺谷拓磨



拓磨さん
(海老沢)

僕の祖母は昨年の四月、九十歳で亡くなりました。亡くなる少し前でも、九十歳とは思えないほど明るく元気な人でした。最初にうち、祖母がいないうちに実感はわかず、家の中がとても広く

規模が小さくなったとしても、七十歳をすぎてまだまだ現役で頑張っている祖母のパワーは、私が見習わなければいけないくらいすごいものです。

おじいさん、おばあさん、これからは元気な二人仲良くおいしいお米を作っていてください。

なつたように感じていました。落ち着いてくるにしたがい、徐々に祖母が僕の生活の中でとても大きな存在だったことが分かってきました。

僕が何かで落ち込んでいるときは、いつも優しく声をかけてくれました。また、テストなどいい点をとると、自分のことのように喜んでくれたことを思い出します。

祖母の優しさを一番感じたのは、祖母が体調を崩して入院した時でした。僕がお見舞いに行つて、「ばあちゃん、体調はどう？」と声をかけると、祖母は

「大丈夫だよ、ありがとう。それより学校は楽しいの。何か困っていることはない？」

と気遣ってくれました。その言葉から僕は、祖母がいつも僕のことを気にかけてくれていることを知ることができました。こんなときでも人を思いやれる祖母はすごいなあと思つたし、改めて尊敬しました。

僕はそんな祖母に見守られていたことを、とてもうれしく思いま

す。祖母によって家の中はいつも笑いが絶えず、その明るさにも元気づけられました。祖母が九十歳まで元気に生きられたのは、周りの人を楽しみ気持にすることが出来る力を持っていたからかもしれません。

僕は祖母にたくさんのお話を聞いてもらいました。いつも笑顔で人に接することはとても難しいことですが、それが当たり前だった祖母は心から優しい人だったと思います。

いつも僕に元気をくれた祖母。これからも僕にとっての誇りです。



本当の気持ち

井川中二年 鈴木 まどか



まどかさん
(街道)

私のおばあさんはお母さんのような存在です。

私初三才の時、母が病気でなくなってしまうました。それから家事や庭の手入れ、私と兄の世話など全部おばあさんがやってくれています。毎日毎日大変なことがかり任せて、ケンカした時も「もうやらねえや。」などと言っているけれど、それでもしっかり私の世話をしてくれます。私は『こんなにいいおばあさんは、いないんじゃないか』というくらい尊敬しています。

自分がかぜをひいた時でも仕事を休まないで、その上、毎日三ツ星以上のとってもおいしい料理を

作ってくれます。

仕事だって家事だって大変なのに、私たちに尽くしてくれるおばあさんに、とても感謝しています。でも、最近は話すたびに口ゲンカになってしまい「ありがとう。」も言えていません。それどころか私はおばあさんに「うざい！」などと、ひどい言葉を投げ捨てて、わざと階段を音をたてて歩いたりドアを思いっきり閉めたり、ひどい態度をとってしまいます。

この前学校で、高齢者疑似体験をしました。手足に重りをつけて、ひじ、ひざを曲げにくくして、目は、よく見えなくなるめがねをかけ、耳も聞こえにくくなるように耳あてをつけました。一歩足を前に出すだけなのに、看護がないと不安で歩けず、階段は怖くて登れませんでした。この疑似体験をして、家のことを全部やってくれているおばあさんを、もっと手伝おうという気持ちが高まりました。おばあさんは今年で六十八才になります。私は、小さなころから今まで、数えきれないほどたくさん心配や迷惑をかけてきました

た。だからこれからは少しでも手伝いをして、おばあさんに楽をしてもらいたいと考えています。

また、口ゲンカになったり、ひどいことを言ったりしてしまいうかもしれないけれど、本当は大好き。感謝してるよ。

いつもありがとう、おばあさん。

優良賞

元気で明るい祖父母

井川中二年 三戸 麻生



麻生さん
(今戸)

私には一緒に住んでいる祖父母がいます。二人とも毎日の様に畑仕事や田んぼ仕事など忙しく働いています。毎日忙しく働いているのに二人とも疲れも見せず、大きな病気もかからずとても元気で

若々しいです。

祖父は、私の親が共働きなので雨の日や友達と遊ぶ時など車で送り迎えをしてくれます。どんなに忙しい時でも、自分の時間を少しずらして私に合わせてくれます。

祖母は、毎日家族のためにご飯を作ってくれます。母が仕事で遅くなつた時は特に、みんなの体の事を考えて料理をしてくれます。

二人とも私の生活の中でとても大事な存在です。ごく普通にやっている事が二人がいないと何も出来ないと思えます。

私は、祖父母を見ていつもどうしてこんなに元気で若々しいのだろうか？と思うことがよくあります。やはりそれは二人とも自分達の自由な時間があり、いつも笑っているからなのではないかと思っています。

今、祖父母は、グラントゴルフにはまっています、二人ともその時間になると、とても楽しそうに家を出て行きます。グラントゴルフから帰って来ると私に楽しそうにその日の出来事や次にある大会の事などを話しています。その時の

顔はとても輝いていて若々しく見えるのです。

二人とも仲が良くてもいつも笑っている合っています。でも二人とも自分の意見をきちんと相手に言うので、時々ケンカもあります。私は相手に自分の思っていることを言うのはとてもいい事だと思えます。そしてそれはお互い信頼し合っているから出来る事なのだと思います。

私は、このように生き生きしている祖父母をとて尊敬し、誇らしく思えます。これからも毎日笑顔をやさず元気で仲の良い二人でいてください。

恩返し

井川中二年 石井祐子



祐子さん
(街道)

私の祖母は車いすの生活です。

二年ほど前の夏の暑い日に、急にせきずいの病気になってしまい、一時期は全く足が動きませんでした。

しかし、長い間リハビリを重ね、今では家で歩行器の練習もしています。車いすなので手が届く範囲などは制限されてしまいましたが、その時は祖父に助けってもらい、協力しながら生活しています。

車いすでも、祖母はできることがたくさんあります。料理は漬け物や揚げものなどたくさんレパートリーをおいしく作ることができるし、車いすからいすやベッドに移ることもできます。バリアフリーの施設なら、どこへでも遊びに行けます。

祖母がこんなにも回復したのは、いつも明るく、プラス思考でリハビリに励んだからなのだと思います。

祖母は、全く足が動かなかった時も

「必ず歩けるようになってやる。」と、よく言っていました。

毎日毎日、リハビリをしては、「今日はこんなことができるよう

になった。」と嬉しそうに報告してくれました。

どんなに辛い状況でも、いつも周りを明るくし、自分自身に対して厳しくしている祖母は本当にすごいと思います。

でも、そんな祖母も、体に痛みがあった時「もう嫌だ。」

と弱音を吐いたこともありました。苦しかった時期も含めて今の祖母があるのだと思えます。

これから祖母はもっとも回復し、歩けるようになることを私は信じています。そして、祖母やいつも祖母を支えている祖父を、私は応援し、家事などを手伝いたいと思います。それが、小さい頃から面倒を見てくれ、たくさんのことを教えてくれた祖父母に対する私の恩返しだと思うからです。

「おじいさん、おばあさん、いつまでも元気でいて下さい。」